

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

- 【藤の学び合い・響き合い】
- 基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ力を育てます。(知)
  - 自分も友達も大切にできる豊かな心を育てます。(徳)
  - 心と体を鍛え、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体)
  - 地域の人やものを大切にし、地域の一員として協同する力を育てます。(公)
  - 物事を多面的にとらえ、多様性を尊重しようとする態度を育てます。(開)

#### 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

〈望ましい人間関係構築のためのコミュニケーション能力〉

#### 具体化した資質・能力

「IN」「THINK」「OUT」  
情報を取り入れる力「IN」  
得られた情報を元に自ら考える力「THINK」  
自らの考えを表現する力「OUT」

#### 中期取組目標

- 一人ひとりを大切にしながら学び合う学校を実現します。
- ・「みんながってみないい」を合言葉に、子どもの思いや願いを丁寧に受け止め、あたたかな人間関係を築きます。
- ・学ぶ楽しさ、わかる喜びが実感できる授業づくりを推進し、学力を向上させます。
- ・学校を開き、地域や保護者、関係機関と協働して豊かな学びを創造します。

### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学習指導	①望ましいコミュニケーション能力の育成を目指し作成した本校の教育課程の見直しを通して、さらなる充実を図る。主体的に学ぶ意欲を身に付けるべく、授業改善に努める。また、学習成果の報告の場としての藤の木フェスタをこれらの取組と関連させていく。 ②ICT教育や、教科担任制など、本校の教育課題に組織的に取り組んでいく。
担当	重点研究部

学力向上に関わる本校の状況
1) 学力の概要と要因の分析 学校全体で見ると、全教科だいたい横浜市の平均あたりであるといえる。学習意識調査では、各教科の学習について、「好きである」「どちらかという好きである」と答えた児童の割合は7割近くであった。学習に対して意欲をもって取り組もうとする児童が半数以上を占める一方で、約3割程度の児童が学習に対して受け身になっており、主体的に学習に取り組むことができていないのではないかと考える。 2) 学力層を経年変化で捉えた分析 どの学年もだいたい市の平均値である。日々の授業では、自分の思いや考えを積極的に発言したり、算数では、自分の言葉で説明したり図や式で表したりしている。少人数指導を効果的に取り入れ、個に応じた指導を進め、学習のめあてに沿った学習を行い、学習の定着を図っていくようにする。 3) 学習意識・生活意識と学力層とのクロス集計による分析 学力や学習意識が市の平均値であるが、「自分のことが好きだと思うか」という項目に関しては、「そう思う」と答えた児童の割合が約6割程度であり、市の平均を下回った。児童が自信をもち、自分を表現できるような学習課題の設定をし、授業づくりをしていくようにしていきたい。

今年度の目標
○校内や小中一貫ブロック授業研における授業公開を通して交流し、基礎・基本の確実な定着を図り、主体的に取り組む授業や学習活動の充実を目指す。
目標を実現するための具体的行動プラン
<p>上半期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○約束やきまりを理解する力、感じたことを言葉にする力 ・学級の一員としての自覚をもち、協同的に活動することを通して、学校に慣れ、安心して学校生活を送ることができるようになる。</li> <li>○相手の話を聞く力、目的、理由を説明する力、自分から声をかける力 ・社会科等で見学・調査したことを説明する文章や記録する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いの場面を位置づける。 ・説明する文章や記録する文章や記録する文章を書く場面や表現活動を大切に、話し合いの場面を位置づける。</li> <li>○相手に対する思いやりの言葉がけができるようになる。 ○目的、理由を説明する力、思いやる力、自分とは異なる考え、意見を認め受け入れる力 ・自分の考えをもち、相手を認め受け入れようとする。</li> </ul> <p>下半期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○約束やきまりを理解する力、感じたことを言葉にする力 ・自分の学習課題に対して自分ごととして取り組み、自分の思いや考えをもち、自分を表現できるようにする。</li> <li>○相手の話を聞く力、目的、理由を説明する力、自分から声をかける力 ・説明する文章や記録する文章や記録する文章を書く場面や表現活動を大切に、話し合いの場面を位置づける。</li> <li>○目的、理由を説明する力、思いやる力、自分とは異なる考え、意見を認め受け入れる力 ・自分の考えをもち、相手を認め受け入れようとする。</li> </ul>

### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①学校教育全体で道徳教育を充実させ、児童一人ひとりの個性を認め合い、相手に思いやりの気持ちをもって接することができる学校づくりを行う。②「ふれあい活動」で異学年との交流を行うことで、社会性やコミュニケーション能力を学んだり、児童の自主性を重んじながら思いやりや助け合いの大切さ、よりよい人間関係の構築を行うことができるようにする。③人権週間での取組を通して、人権に対する意識を高め、日常生活で常に意識できるようにする。
担当	人権ふれあい部 道徳部

豊かな心に関わる本校の状況
○自分からあいさつをすること、人の話を聞くことが苦手であり、コミュニケーションの基盤となる力がやや弱い。また、道徳的価値は理解しているものの、規範意識や相手の気持ちなど、自分で判断して行動する力が弱い傾向にある。 ○保護者や地域は、学校教育への理解・支援の関心が高い。保護者力や地域力を生かした教育活動の充実が求められる。

今年度の目標
①「ふれあい活動」を基盤とし、異学年との交流、地域や多様な人々とのかわりを通して、自己有用感や人権感覚・意識の育成向上を図る。 ②道徳教育が教育活動全体を支えるものとして、道徳の授業を丁寧に実践し、規範意識や多様性尊重などの心情や態度の育成につなげていく。
目標を実現するための具体的行動プラン
<p>上半期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[項目 道徳教育] 道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育 ・実生活との関連を重視した取組の充実 ・道徳教育との関連の促進(豊かな体験を生かした道徳科の指導の推進) ・道徳教育全体計画、別業、年間指導計画の見直しと活用</li> <li>[項目 人権教育] 全教育活動において人権尊重の精神を基盤とした教育を行うこと ・人権教育全体計画に基づく教育活動・人権尊重の精神を基盤とする授業づくり ・人権週間での取組 学年単位で外部講師の招聘など活動内容を工夫し継続する ・子どもの社会的スキル横浜プログラムの教育課程への位置づけ</li> </ul> <p>①感染症対策を最優先にした「ふれあい活動」を実施し、自己有用感や人権感覚・意識の育成向上を図る。 ②令和元年度作成した教育課程をカリキュラムマネジメントの理念に基づき検証し、適宜修正を加えながら、本校の道徳教育が教育活動全体のさらなる充実を図る。</p> <p>下半期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[項目 道徳教育] 道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育 ・実生活との関連を重視した取組の充実 ・道徳教育との関連の促進(豊かな体験を生かした道徳科の指導の推進) ・道徳教育全体計画、別業、年間指導計画の見直しと活用</li> <li>[項目 人権教育] 全教育活動において人権尊重の精神を基盤とした教育を行うこと ・人権教育全体計画に基づく教育活動・人権尊重の精神を基盤とする授業づくり ・人権週間での取組 学年単位で外部講師の招聘など活動内容を工夫し継続する ・子どもの社会的スキル横浜プログラムの教育課程への位置づけ</li> </ul> <p>①感染症対策を最優先にした「ふれあい活動」を実施し、自己有用感や人権感覚・意識の育成向上を図る。 ②令和元年度作成した教育課程をカリキュラムマネジメントの理念に基づき検証し、適宜修正を加えながら、本校の道徳教育が教育活動全体のさらなる充実を図る。</p>

### 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①健康診断・健康教育を通して、自分の体や健康な生活への興味・関心を高め、生活に活かせるようにする。 ②正しい知識をもとに感染症の予防対策を行い、健康な体をつくるための行動ができることを目指す。 ③感染症対策をとりながら、外で体を動かす環境を整え、体力の向上を目指す。 ④衛生面に気をつけて、食べ物の働きを知り、健康に良い食事の摂り方を身に付ける。
担当	体育部 保健部 給食部

健やかな体に関わる本校の状況
1) 体育・健康に関する実態 ・休み時間、外で遊ぶ児童が多いが、転んだり、ぶつかったりして怪我が多い。 ・サッカー、野球、バスケットボール、バレーボール、水泳など、地域のスポーツクラブが盛んで、所属している児童は多い。 ・感染症予防として、手洗いや換気など児童が自らしている姿が見られる。 ・食べ物の好き嫌いがある児童が多く、給食の残量が多い。食への関心が薄い。 2) 体力の概要と要因の分析 ・体力の結果については、立ち幅跳び、50m走の結果がどの学年もおおむね市の平均を上回っている。 ・反復横跳び、長座体前屈はどの学年もおおむね市の平均を下回っている。

今年度の目標
○児童が健康・安全について理解し、健康な体づくりへの関心を高め、運動に親しみ、実生活において運動を豊かに実践していこうとする姿勢を育てる。
目標を実現するための具体的行動プラン
<p>上半期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科(主に、体育科・保健体育科、他教科での取組) ・準備運動は、担任が担い柔軟運動を取り入れたり、主運動につながる動きを取り入れたりする。(長期休暇などを利用し、柔軟運動に取り組めるようにする) ・「体づくり」の時間を充実させる。1校1実践の取り組みと関連付ける。 ・家庭科では、栄養職員と連携して、健康的な生活をいとなむために必要な栄養素について理解を深める。 ・理科では単元を通して、体のしくみ、生命、人と環境など、心身ともに健康的に生活しようとする態度を育てる。</li> <li>○道徳・特別活動・総合的な学習の時間 ・保健委員会による学校保健委員会を年に2回開催することで、児童の生活習慣の改善を図れるようにする。</li> <li>○課外活動 ・児童の運動・健康に関する情報を保護者と共有し、協力を得られるようにしていく。</li> </ul> <p>下半期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科(主に、体育科・保健体育科、他教科での取組) ・活動を通して、友達との関わりを大切に、お互いの良さに気づき共に高め合おうとする人間関係を育てる。</li> <li>○道徳・特別活動・総合的な学習の時間 ・運動委員会を中心に長縄集いを開催し、児童が継続的に運動に取り組む機会を作っていく。 ・運動会では、体育の時間で学習したことを中心にプログラムを構成する。 ・ペア学年での種目を作り、異学年との交流を通して、運動することの楽しさを実感できるようにする。</li> <li>○課外活動 ・毎週木曜日の昼休みを長くとり(キラキラタイム)、子どもたちが運動に親しみ機会を多くする。 ・保健委員会が中心となって、子どもたちの実態に応じた目標を設定し、継続的な取り組みを行う。</li> </ul>